

日本の国債累積問題を考える－歴史と現状－

経済学部 教授 永廣 顕

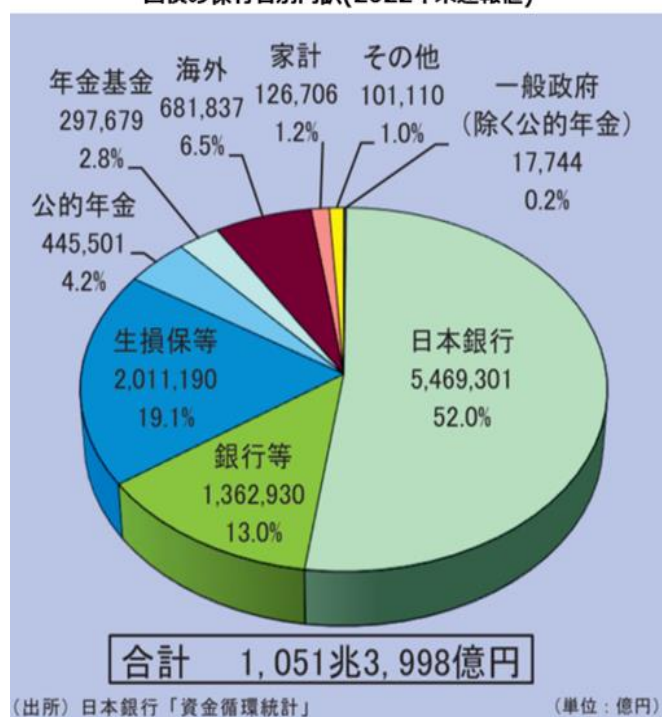
研究の概要・特徴

持続的で安定した日本の経済社会を創造するうえで懸案となる問題は山積しているが、国債累積もその一つである。2023年度には政府債務残高の対GDP比は250%を超え、しかも、2013年4月以降の異次元金融緩和政策で中央銀行である日本銀行が民間金融機関から国債を大量に購入し続けている結果、2022年末には国債残高の5割以上を日本銀行が保有するという異常な一極化現象が進行し、インフレや国債価格の変動リスクの問題が懸念されている。

現在と同様の状況は戦前・戦時期にも存在し、1930年代後半から国債が累増し第二次世界大戦末期の1945年には政府債務残高の対GDP比が200%を超え、新規国債の大部分は日本銀行引受により発行されていた。しかし、現在とは対照的に、日本銀行は引き受けた国債を必要最小限しか保有していなかった。これは、日本銀行が引き受けた国債を民間金融機関等に売却していたからである。

本研究では、戦前・戦時期の日本において大量発行された国債の消化、流通、保有状況の全体像を明らかにし、戦前・戦時期を超えるレベルにまで国債が大量発行され日本銀行に依存した国債保有構造からの脱却と国債保有の多様化が喫緊の課題となっている日本の現状に対し課題解決に向けた示唆を提示したいと考えている。

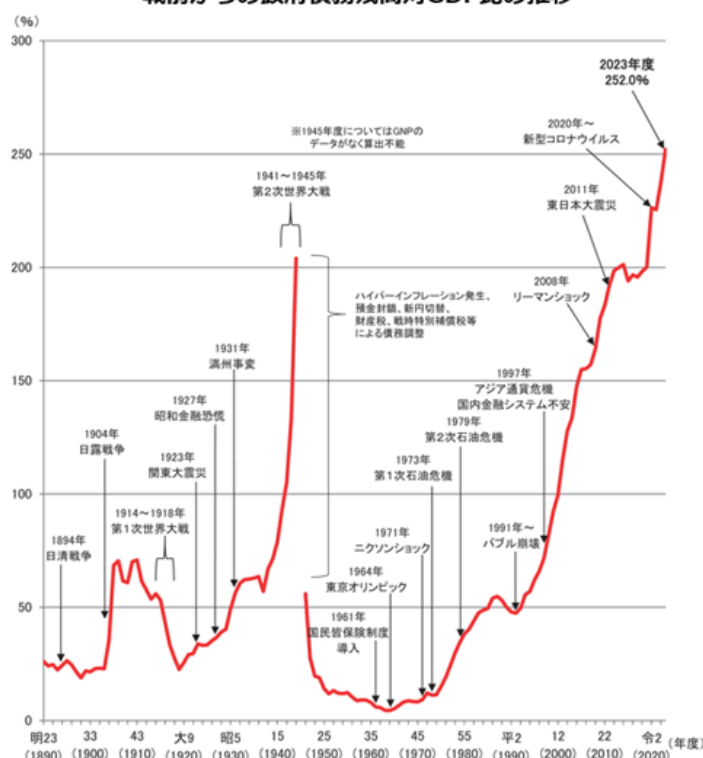
国債の保有者別内訳(2022年末速報値)



(資料) 財務省理財局 (2023) 「債務管理レポート2023－国の債務管理と公的債務の現状－」

https://www.mof.go.jp/jgbs/publication/debt_management_report/2023/saimu2023.pdf (最終閲覧日: 2023年8月16日)

戦前からの政府債務残高対GDP比の推移



(資料) 財務省 (2023) 「日本の財政関係資料 令和5年4月」

https://www.mof.go.jp/policy/budget/fiscal_condition/related_data/202304_00.pdf (最終閲覧日: 2023年8月16日)

